



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：エルドアン首相、大統領選挙への出馬表明

7月1日、与党の、公正発展党（AKP）は、現在、同党党首で首相のレジェプ・タイイプ・エルドアン氏を次期大統領候補として選出することを決定した。アンカラで行われた集会は、閣僚や議員をはじめ黨員、関係者等、約4,000人が集まる大規模なものとなった。シャーヒン副党首より、エルドアン首相がAKP 黨員の満場一致によって同党の候補者に推薦された事が明らかにされた。2015年に任期満了となるエルドアン首相の去就は、以前より国内外で大きな注目を集めていたが、大方の予想通り任期を前倒して、大統領選挙に臨むことになる。

これに対し、最大野党である共和人民党（CHP）は、一足早い6月中旬に民族主義者行動党（MHP）と連携し、イスラーム協力機構（OIC）前事務局長の、エキメレッティン・イフサンオール氏を統一候補として擁立した。世俗主義政党・左派のCHPと、「極右」のMHPが連携するのは極めて異例で、エルドアン首相が立候補するのを見越して対抗馬を立てたとみられる。しかしながら、CHP党内ではイフサンオールは、同党が掲げる世俗的価値の共有が難しく、候補者としてふさわしくないと考える議員ら42名が反対の署名を行う等、足並みは中々揃わなかった。イフサンオール氏以外にも、クルド系の「人民の民主主義党」（HDP）からセラハッティン・デミルタシュ氏が立候補を表明しており、大統領選挙は3人で争うことになりそうだ。エルドアン首相の正式な出馬表明を受けて今後の選挙戦は益々ヒートアップするだろう。

評価

今回の大統領選挙はトルコにとって様々な意味で転換期である。トルコの大統領はこれまで議会が選出してきたが、2007年に行われた憲法改正により、今回から国民の直接投票で選ばれることとなる。さらに、2014年3月に行われた統一地方選挙より在外投票も可能となった。

現時点ではエルドアン首相が最有力候補とされている。エルドアン首相は、当選を果たした場合、憲法を改正し大統領権限を更に強化する事を公言しており、自身への権力を集中させたい思惑が見え隠れしている。

2013年6月にはイスタンブールを中心に首相の退陣を求める大規模な反政府デモが発生し、2014年初めに発覚した首相自身への汚職疑惑も払拭されていない。絶頂期に比べればエルドアン首相の求心力は衰えを見せたかに思えるが、地方を中心に人気は根強い。また、現時点では同首相に対抗できるだけのカリスマ性と政治手腕を持った人物がいなくても事実である。知名度の点では劣るものの、国際組織で改革を行ってきたイフサンオールがどこまで迫れるかが注目される。

（金子研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799